

○5番（前田せつよ）

5番議員、前田せつよです。

通告に従いまして質問をさせていただきます。子育て支援体制を強化し、さらなる充実を。

本年5月4日、子どもの日を前にして、総務省は少子化が大きく進んでいるとの発表をいたしました。我が国の15歳未満の子どもの推計人口は前の年に比べて12万人も減少し、過去最小の人数1,665万人、これは4月1日時点のものでございます。しかし、開成町では人口増加がここ10年余り続いており、15歳未満の子どもは平成17年から平成22年の5年間だけでも300人以上もふえました。平成23年、昨年でございますが、2,637人となりました。そのうちの1,021人が5歳以下の子どもです。その上、開成南小学校周辺の開発、南部地区土地区画整理事業に伴う1,200人も転入者が平成25年から平成26年度末までに見込まれております。したがって、本町では子育て支援体制の強化は急務であると考えます。

1、町の子育て支援センターの運営を改善・充実する一つの方策として、その利用時間を午後も可能にしたり広場型の支援サービスも取り入れたりするなど、何らかの具体的な展開をすべき時期と考えますが、どのような計画か伺います。そこで、
2、ファミリーサポートセンター、これはセンターが調整役となりまして民間会員同士で子育てを援助する仕組みでございますが、この体制づくりが子育て支援に有益と考えますが、町のお考えはいかがでしょうか。以上を登壇しての質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

前田議員のご質問にお答えいたします。

開成町における子育て支援体制については、人口増加とともに年少人口の占める割合が高い状況にあります。その中で、まず第一に進めてきたことが、保育所整備と保育サービスの充実であります。平成14年には町内二つ目の認可保育園を整備し、昨年度には待機児童ゼロ対策として分園の整備により30人の定員増を図ってきました。現在計画期間である開成町次世代育成支援対策地域行動計画、後期基本計画においては、待機児童ゼロを目指す保育所施設とともに、すべての子どもたちと、その家庭を地域社会全体で支える子育て支援施策の取り組みを課題としております。

議員ご指摘のとおり、開成町では開成南小学校の開校もあり、継続して年少人口が増加しております。南部地区での新市街地整備により、今後も年少人口の増加が見込まれております。その中で、集合住宅の増加や核家族化の進行により地域とのつながりの希薄化が進み、出産や育児に対して不安感や孤独感を持つ親が増加をし

ており、子育て世代全体を含めて行政としての対応策が必要になってきております。

一つ目の質問の子育て支援センターについてですが、常設の子育て支援センターの整備について、運営方法なども含めて検討を進めていきたいと考えております。その間の対応として、現在、一定の効果を上げている既存の子育て支援センターを継続、充実するとともに、町社協が今、実施しているチビッ子らんどやひよこ広場を午前中だけでなく午後も実施できるよう、充実を図っていく検討をしていきたいと考えております。検討を進める子育て支援センターについては、南部地区の区画整理後の新市街地整備を想定して整備を目指し、親子の交流や子育ての情報交換の場として子育て世代が集まる施設として検討を進めていきたいと思っております。整備の仕方としては、行政がすべてを実施するというだけでなく、民間の活力を活用できないかも検討していきたいと考えております。

二つ目のファミリーサポートセンターの件ですが、これは、いわば地縁や血縁での子育て機能の代替をするといった考えのもと、お子さんを預けたい方と預かってくださるボランティアの方をマッチングして、子育て支援機能を補完する制度であります。それぞれの方が会員登録をして、コーディネーター役の職員が預かる時間の調整をして実施しているものであります。足柄上郡では2町が実施をしております。大井町では直営で、非常勤職員をコーディネーター役として実施をしております。松田町では、コーディネーター業務を委託して行っております。開成町としても、地域住民の間で高まっているボランティア意識をとらえて、預かってくださる担い手となるボランティアのマンパワーを把握しながら、ファミリーサポートセンターの構築に向けて検討を進めていきたいと考えております。

現在策定している新総合計画の計画期間は、南部地区の区画整理が完了をし、新市街地がつくられ、新住民が開成町に定住していく時期です。その状況に対応した開成町の子育て支援体制をしっかりと計画に位置づけをして、施策を進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

ただいま一定の答弁をいただきました。順次、再質問をさせていただきます。

1としまして、町が現在、さまざまな場所で行っております子育て支援センターの利用時間帯は、先ほど来からお互いに認識しておりますとおり、原則、午前中のみでございます。午後も開設する試みとして、町社会福祉協議会が実施中の二つのサロン、すなわちチビッ子らんど及びひよこ広場の開設を午後も検討するのご答弁でしたが、その一つ、チビッ子らんどは週に2日、火曜日、木曜日、福祉会館の2階で10時から開設されておるところでございます。木曜日は昼12時までですが、火曜日については午後4時までになっております。また、ひよこ広場についても、同じく福祉会館で10時から午後4時までとはなっておりますが、場

所が室内ではなく人工芝のある3階の屋外のバルコニーのため、天候によって開催できないことが多々あるのが現状でございます。二つのサロンとも未就園児向けの対応の事業となっております。

その二つのサロン、チビっ子らんどとひよこ広場が、速やかに、まずは午後の開設の定着ができるということで、ご答弁いただいたのではないかと理解しているところでございます。そこで、先ほどは午後の開設へのシフトを検討するのご答弁でしたが、いつごろまでをめどに検討結果を発表されるのか、また私どもにいただけるのか、お考えをお示し願います。

また、常設の子育て支援センターを新総合計画に位置づけて運営方法等の検討を進めるとのことですが、そこには町民の皆様の声を反映させることが欠かせないことはもちろんでございますが、これまでの既存のパターンで、例えば、甲と乙という二者の関係だけで進めるのではなく、今までにない新たな第三者機関など、また専門機関など多方面にわたって大いに連携をとり広い視野の中で柔軟に考えること、それそのものが費用対効果が見込まれることと思っておりますが、いかがでしょうか。ご見解をお聞かせ願います。

○議長（茅沼隆文）

福祉課長。

○福祉課長（遠藤伸一）

ただいまの議員のご質問にお答えをいたします。

まず、1点目の社協の行っている子育て支援事業のことでございますが、議員ご指摘のとおり状況で、今、実施をしているところでございます。議員からもご指摘がありましたように、運営は社会福祉協議会がやっていると。今回の検討の中で、当然、子育て支援部門を扱っている福祉課として、そのようなことで、これから社協と話を進めてまいりたいというふうに考えております。

それで、現在、チビっ子らんどをやっている部屋が2階の教養娯楽室、畳のある部屋と若干フローリングの部屋がまざっている部屋でございますが、その部屋の利用状況が今現在、約50%ほど、例えば、月曜日、水曜日、金曜日等も時間がある、火曜の午後も全部入っているわけではないというような状況もございませんので、施設的には可能かというふうに考えております。

あと、運営面でございますが、社会福祉協議会のやっているのは、ある意味、端的に言うと開放しているというようなレベルでございますので、そこら辺の内容の充実も社会福祉協議会と検討していきたいというふうに思っております。

それで、時期の話でございますが、来年度へ向けて検討をしていくということで、ここでは言わせていただきます。

二つ目の常設の子育て支援センターを検討していくのだというようなことで答弁をしましたが、それで今のご質問で、町民の声を入れながら、さらに専門的機関あるいは広い視野で今までにない形を、より検討して進めたらどうかというようなご提案だというふうに思っております。町としましては、今の子育て支援センターが

拠点型の子育て支援センターというようなことで進めております。今度ねらっているのは、いわゆる広場型というようなことでつくっていかうというふうに思っております。そういう中で、これからの話になりますけれども、先進的な事例、あるいは開成町に合った事例で、それも今までの既存の子育て支援センターと形の違う中で両方を共存させた中での形を構築していくことになると思いますので、開成町に合ったことを今後、研究・検討をしてみたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今の2番目の件なのですけれども、今ある子育て支援センターが全部だめという話ではありませんで、広域的に見て、近隣においても広場型が、今は常設型という形で小田原でも秦野でもほとんどそういう形が多いということも含めて、いろいろな皆さんの意見を聞きながら方向性を決めていきたいと思っております。今、課長が言ったように両方共存の可能性もありますし、そういう意味で、行政だけで決めるのではなく、前田議員の言われたように、いろいろな町民の皆さん、特に子育てをしているお母さん、現場の人も含め、あと専門家、そういう人たちのご意見を聞きながら、きちんと方向性を決めていきたいと。中身についても、委託型、直営型、いろいろあります。そういう意味において、きちんと検討はしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

今のご答弁をいただいた中で、まず、チビっ子らんどとひよこ広場についてでございますが、私も開放型であるということは承知しているところでございます。来年度に向けて検討して下さるということでございますが、開放型であるために、特に安全性等、社協と十分協議した上で着実に実現に向けて早速動いていただけたらと思うところでございます。

また、町長のお話の中で、今ある子育て支援のパターンが我が町は7種類あるかと思っておりますけれども、いろいろな委託の保育園に頼んでいたりということで今もご苦労いただいて支援が進んでいるということは、それは本当に十分認めることで、同様に、私もそれを否定するものでは一切ございませんで、子どもの人口の増加に向けてプラスアルファをかなり早急な形で持たなければ大変になるよと、そういう思いで提案をしているところでございます。

そして、先ほど同僚議員のご答弁の中にもお話がありましたけれども、平成26年に、先ほど町長がお話しの中で、酒匂川2号橋の完成により交通アクセスが整う関係で企業立地もニーズが高まるということでございますので、子育て支援センタ

一の建設に当たっても、まず、そういう形で広域的なことを考えるということも一案ではないかなと。そこに、すなわち付加価値も大きく生まれるということになることだと思います。

また、ご紹介のありました近隣の市区町村を眺めますと、松田においては10年前の10月にできております。そのセンターを開設するのは、1年半前から、それにかかわる検討委員会が15名から17名でスタートをしたということ、この間、伺って聞いてきたところでございます。もう開発は日付も迫っていることですので、早目にそういうことに着手してスタートをするということが大事ではないかなというところで思うところでございます。その点について、ご見解を伺います。

○議長（茅沼隆文）

福祉課長。

○福祉課長（遠藤伸一）

議員のご質問にお答えをいたします。

子育て支援センターの検討に向けてのご提案だというふうに思います。松田町のことも、私のほうも聞いております。それで、検討に1年半かかったというようなことございました。実は、私のほうも、22年度に策定した次世代計画に、そのような方向性を検討するというようなことが書いてありました。ただ、現実的には、まだ検討のレベルまで至っておりません。すなわち、まず町民の声を聞くことからスタートしていかなければいけないという段階でございますので、時間が必要だというふうには思っております。

また、今後の開成町の人口の動向でございますけれども、南部地区の区画整理におきましては26年度に面整備が完了して、そのころから人がくっついていくというような状況がありまして、さらにふえていくという状況がございますが、今現在においても子育て支援センターの設置を要望する声、また実際に子育て不安を抱えているお母さんがなかなか相談する場所がないよというようなことも計画策定の際のアンケートで聞いておりますので、そこら辺をよく検討しながら事前に検討を進めていきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

次に、ファミリーサポートセンターについて再質問させていただきます。今の支援センターとかなりリンクするといえますか、同様に足並みをそろえてやっていく事業かと思っておりますけれども、先ほどの答弁の中で町の次世代育成支援対策として地域の行動計画にも触れておられましたが、それは第四次でも第五次でも、今までずっと触れられてきた事業だということを認識しております。この計画書の中で①ということで、地域における子育て支援サービスの充実の項目に具体的な施策が八つ掲げられております。その一番最初に出てきておりますのが、ファミリーサポート

センターの事業名が記されております。町行政としても重要視されているのだなど私は判断するところでございます。

ところで、ファミリーサポートセンター事業は、全国47都道府県のうち46都道府県が行っております。近隣においても、大井町、松田町、そして南足柄市、小田原市など多くの自治体が展開をされております。

ここで、近隣の様子を含めまして少しご紹介をさせていただきたいと思います。ファミリーサポートセンターは、別名を愛称でファミサポと呼ばれて皆様の中に広がっているところでございますが、町長の先ほどのご説明にもあったように、子育ての助けが欲しい方、依頼会員と呼ばれておりますが、それを引き受けてやってくださる方、支援会員という、そういう個人個人の支援の体制をまずつくっていくことから始められ、そこにはコーディネーターと呼ばれる方、その方が調整をしてくださって事業が成り立ちます。近隣では、平日の利用は有償ボランティアということで、30分350円を基本に今、行っているところでございます。二つの行政の職員の方にお話を伺ったところ、「ファミサポの事業は子育て支援について欠かせないのですよ」ときっぱりとおっしゃっていたのが、大変に私、印象に残ったところでございます。

その一つ、先ほどお話の出きた松田町は、依頼会員さん、利用されている方は20代、30代がとても多くて、支援会員さん、手助けをされる方は50代、60代が大変に多いそうです。依頼会員につきましては、生後4カ月から小学校6年生までのお子さんのいる方で、町内に勤務している人も受け入れていただけているということで、現在、開成町の方も依頼会員さんなのですよというお話をいただきました。需要が多いのは、子どもの習い事の送り迎えや保育園、幼稚園からの帰宅後の預かりが多いということだそうです。

開成町は、町長がよくお話しされています、朝・晩の見守り運動を初めとして、自治会、婦人会など多くの団体のかかわってくださっている個人個人のボランティアの力は大変に恵まれていることに感謝と自負をする町であると断言できると思います。そこで、ファミリーサポート体制をつくることは、きずなを深める事業であり、また年少人口の増加に対しての子育て支援策であり、開成町こそ率先して進めることが望まれている大変に有益な事業であると私は考えております。先ほどは、これから町としては、お子さんを預かる担い手となるボランティアマンパワーを把握するとのご答弁もありましたが、把握だけではなく、早速、支援センターと同時進行という目線を持って、ファミサポの人材となる担い手研修を、まず町民に対して無料で実施するというところをご提案したいと思います。町のお考えを、ぜひお聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

福祉課長。

○福祉課長（遠藤伸一）

議員のご質問にお答えをいたします。

開成町におきましては、自治会活動も盛んで地域力が非常に強いというようなことで、現在の子育て支援センターにおきましても、各自治会館をお借りをしてお出かけ保育等をやっておるわけでございます。また、先ほどの議員のご質問の中で、いわゆる検討していくという中で、このファミリーサポートセンターも一緒にまぜて検討して行って、一つの開成町の子育て支援体制というのどのような形を構築していくのかということをしっかり検討していきたいというふうに思っております。

また、ファミリーサポートセンター、これについては、会員募集、担い手となる方々については、特に資格を求めているわけではございません。当然、それをしていくには、今後の検討もありますけれども、例えば、南足柄なんかのばーば倶楽部なんかも、その名のとおり、その世代の方々が子育て支援を支えていくというような発想のこともございますので、そういう世代も含めて気持ちのある方々を引き込むという部分で。また、保育的なことを行ったりしますので、そこでの安全性もしっかり担保しなければいけないというようなことで、講習会というのをやって、その受講を住民の方がそういう会員になっていくというシステムはしっかりとつくってきたいというふうに思っております。それで、早急に検討を進めたいというふうに思います。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

先ほどの子育て支援センターに限っては、乳幼児ですとか小さなお子さんが対象の主たる事業になるかと思いますが、ファミサポについては、近隣の市町村すべて小学校3年生もしくは小学校6年生までという、かなり広い範囲での対象の施策になっているところがございます。本町では、例えば、放課後児童クラブの委託料を見ますと、17年度決算から平成22年度決算におきまして46.8%の伸びがあって、今、既存の放課後児童クラブも、かなり大勢の中、四苦八苦しなながら現場では対応していただいているというのが実情かと思えます。ファミリーサポートセンターの依頼会員、支援会員さんも、本当に、松田町さんですとか南足柄市さん、小田原市さんのメンバーに伺いますと、まずは気軽に、例えば、塾の迎えにだけだったら15分か20分、お手伝いできるよというような形で気軽に登録をしていただいて、その中で順々と行政内に広がっていくと。そういう輪が広がることによって、安全性も、また町としての質も、また町民としてのきずなの深さも、どんどんと目覚しく発展して、もっとすばらしい開成町になるのではないかなというふうに思います。

特に、利用時間を眺めますと、近隣すべて2時間未満というところで利用が進んでいるということを教えていただいたところでございます。また、例えば、おばあちゃんが自分の孫ぐらいの年齢の方をお預かりしてきて、お世話をしたときに、たまたま一緒にお家でいられるおじいちゃまですとか、またご自分のお孫さんと本当によい人間関係ができてコミュニケーションも図られていくというような事例が

多々あるということでございます。際立ってひどい問題点などないということで、やはりコーディネーターさんのお力もあるものだそうでございます。とにかく、うれしいことに人口増加が進んでおりますので、先ほど来から町長のおっしゃる新総合計画に検討を進めますというお言葉が、実際に新総合計画に向かって、この事業に関しては、もう動き出しますと、そこまでのご答弁をちょうだいしたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

保健福祉部長。

○保健福祉部長（草柳嘉孝）

答弁については、先ほど町長が申したとおりでございます。実質的に、開成町については子どもの数は上がっています。実際、人口が張りついてくるのは平成26年度、土地区画整理が終わって以降、徐々に伸びていくのだと思いますけれども、それも、今の現状を見ましても待ったなしという状況でございます。先ほど申しましたように、子育て支援センターにつきましても、今の状況が決して悪いということではないですけれども、それに伴ってさまざまなニーズが出てきているわけですから、そちらにつきましても積極的に事業については検討を展開していきたいと、そのように考えております。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

予算的なものを見ましても、ファミサポの直接の費用というものは、近隣の町は500万というような数字を聞いておるところでございます。南足柄も、平成21年度でも800万弱、ファミサポの直接的な予算だったそうでございます。

○議長（茅沼隆文）

すみません。時間が来ていますので、簡潔に。

○5番（前田せつよ）

ファミサポの事業をやることによって、例えば、一時預かりですとか延長保育の事業ですとかが逆に助けられるというような効果も生まれているところがございますので、今後、前向きな形でどんどん展開されていくことを期待いたしまして私の質問といたします。